



2019年度国際文化学部

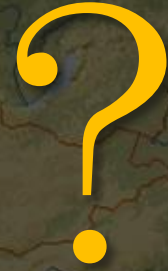
中国の文化IX
俗文学

BT300マルチメディアスタジオ

A satellite view of the Earth, centered on Asia. The landmasses are shown in shades of green and brown, while the oceans are a deep blue. The text is overlaid in the center of the image.

この講義で何を学ぶのか？





「日本固有の文化には、何があるの？」
S A先あるいは外国の人にこんな質問
をされたら、あなたは何と答えますか？

落語

落語は、戦国時代から江戸時代初期にかけて活躍した僧・安楽庵策伝（あんらくあんさくでん、一五五四〜一六四二年）を始祖とする、日本が世界に誇る笑いの伝統芸能。

現在も東京に約四〇〇人、関西に約一六〇人の落語家が活動を続けている。



桂枝雀（一九三九―九九）

一九三九年、神戸に生まれる。中学時代に父親を亡くし、働きながら定時制高校に通い、神戸大学に進学。入学後、一年で大学を退学し、桂米朝の弟子となる。

三三歳のときにうつ病を発症。病気と闘いながら、英語落語や笑いの理論化につとめるが、五九歳で自殺。





なぜ饅頭なのですか？

アジアから見た落語

落語は、日本が世界に誇る笑いの伝統芸能だが、その演目を充実させる過程において、中国の古代笑話から多くの素材を得ている。

「饅頭こわい」も中国宋代の葉夢得（一〇七七～一一四八）の『避暑錄話』という筆記（エッセー集）に引用された笑話がもとになっている。

像亦可一灑然也

讀書而不應舉則已矣讀書而應舉應舉而望登科登科而仕仕而以敘進苟不違道于義皆無不可也而世有一種人既仕而得祿反嚶嚶然以不仕為高若

欲棄之者此豈其情也哉故其經營有甚于欲仕或不得間而入或故為小異以去因以遲留往往遂竊名以得美官而不辭世終不寤也有言窮書生不識饅頭計無從得一日見市肆有列而鬻者輒大呼仆地主人驚問曰吾畏饅頭主人曰安有是理乃設饅頭百許枚空室閉之徐伺于外寂不聞聲穴壁窺之則以手搏撮食者過半矣亟開門詰其然曰吾見此忽自不畏主人知其紿怒而叱曰若尚有畏乎曰有

猶畏臘茶兩碗爾此豈求不仕者也

アジアから見た落語

中国では、北方は小麦、南方は米を主食としてきた。小麦を主食とする北方では、蒸しパンがご飯の役割を果たしていた。

中国の原話にある「饅頭」とは、お菓子のまんじゅうではなく、この蒸しパンを指している。

（左の写真は中国の「饅頭」）



宋の筆記に登場する「饅頭こわい」

ある貧乏な書生。饅頭（蒸しパン）を食べたいと思うのだが、手に入れる方法がない。ある日のこと、市場で饅頭を並べて売っているのを見た彼は、大声をあげて地面に倒れた。店の主人が驚いてたずねると、「私は饅頭が怖いのです」と答えた。

（宋）葉夢得『避暑錄話』卷下
像亦可一灑然也

讀書而不應舉則已矣讀書而應舉應舉而望登科登科而仕仕而以敘進苟不違道于義皆無不可也而世有一種人既仕而得祿反嚶嚶然以不仕為高若

欽定四庫全書

避暑錄話
卷下

七十三

欲棄之者此豈其情也哉故其經營有甚于欲仕或不得間而入或故為小異以去因以遲留往往遂竊名以得美官而不辭世終不寤也有言窮書生不識饅頭計無從得一日見市肆有列而鬻者輒大呼仆地主人驚問曰吾畏饅頭主人曰安有是理乃設饅頭百許枚空室閉之徐伺于外寂不聞聲穴壁窺之則以手搏撮食者過半矣亟開門詰其然曰吾見此忽自不畏主人知其紿怒而叱曰若尚有畏乎曰有

猶畏臘茶兩碗爾此豈求不仕者也

宋の筆記に登場する「饅頭こわい」

「そんな馬鹿なことがあるか」と、店の主人は饅頭百個ほどを置いて、この書生を部屋の中に閉じ込めた。外からようすを伺うと、静かで声がない。壁に穴を開けて覗いてみると、饅頭を手にとってもう半分ほど食べてしまっている。

(宋)葉夢得『避暑錄話』卷下
像亦可一灑然也

讀書而不應舉則已矣讀書而應舉應舉而望登科登科而仕仕而以敘進苟不違道于義皆無不可也而世有一種人既仕而得祿反嚶嚶然以不仕為高若

欲棄之者此豈其情也哉故其經營有甚于欲仕或不得間而入或故為小異以去因以遲留往往遂竊名以得美官而不辭世終不寤也有言窮書生不識饅頭計無從得一日見市肆有列而鬻者輒大呼仆地主人驚問曰吾畏饅頭主人曰安有是理乃設饅頭百許枚空室閉之徐伺于外寂不聞聲穴壁窺之則以手搏撮食者過半矣亟開門詰其然曰吾見此忽自不畏主人知其紿怒而叱曰若尚有畏乎曰有

猶畏臘茶兩碗爾此豈求不仕者也

宋の筆記に登場する「饅頭こわい」

店の主人は急いで扉を開け、問い詰めた。書生は答えていった。「饅頭を見たら、急に怖くなくなったんです」騙されたと知った主人が「ほかに怖いものはないのか!」と怒ると、書生は答えて言った。「ほかに渋いお茶を何杯か、怖いですね。」

(宋)葉夢得『避暑錄話』卷下

像亦可一灑然也

讀書而不應舉則已矣讀書而應舉應舉而望登科登科而仕仕而以敘進苟不違道于義皆無不可也而世有一種人既仕而得祿反嚶嚶然以不仕為高若

欽定四庫全書

避暑錄話
卷下

七十三

欲棄之者此豈其情也哉故其經營有甚于欲仕或不得間而入或故為小異以去因以遲留往往遂竊名以得美官而不辭世終不寤也有言窮書生不識饅頭計無從得一日見市肆有列而鬻者輒大呼仆地主人驚問曰吾畏饅頭主人曰安有是理乃設饅頭百許枚空室閉之徐伺于外寂不聞聲穴壁窺之則以手搏撮食者過半矣亟開門詰其然曰吾見此忽自不畏主人知其紿怒而叱曰若尚有畏乎曰有

猶畏臘茶兩碗爾此豈求不仕者也

『笑府』に収録された「饅頭」

明代の末、蘇州の文人であつた馮夢龍が、中国の古今の笑話を集大成した『笑府』（全十三卷）を出版した。この中に宋代の『避暑錄話』の中の「饅頭」の笑話も収録された。

一説云、南大問曰、想甚食否、妻曰、除是外、無他物。想齊一二隻耳、夫為治一盃、意欲與妻同享、方往取筋回、而妻已染指散盡、止餘其一矣、夫曰、何不并啖此枚、妻攢眉荅云、我若啖得下此隻、就不害病了。

饅頭

有貧士餒甚、見市有鬻饅頭者、偽大呼仆地、主人驚問其故、曰、吾性畏饅頭、主人因設數十枚于室、室中而閉士于內、冀相困、以為一笑、久之寂如、乃啟門、見其搏食過半、詰之、則曰、不知何故、忽不覺畏、主人怒叱曰、汝得無尚有他畏乎、曰、無他、此際只畏苦茶兩碗。

糕

有叫賣糕者、聲甚啞、人問其故、曰、我餓耳、問既餓、何不食糕、曰、是饅頭的。兩曰皆低声說

糰粿

中国の古今の笑話を集大成した『笑府』は、いまどこにあるのですか？

一説云、病夫問曰、想甚食否？妻曰、除是外、
想齊一二隻耳。夫為治一盂、意欲與妻同享、方往
取筋回、而妻已染指散盡、止餘其一矣。夫曰、何不
并啖此枚？妻攢眉荅云、我若啖得下此隻、就不害
病了。

饅頭

有貧士餒甚、見市有鬻饅頭者、偽大呼仆地。主人驚
問其故、曰、吾性畏饅頭。主人因設數十枚于室中。
而閉士于內、冀相困。以為一笑。久之、寂如。乃啟門、見
其搏食過半。詰之、則曰、不知何故、忽不覺畏。主人怒
叱曰、汝得無尚有他畏乎？曰、無他。此際只畏苦茶兩
碗。

糕

有叫賣糕者、聲甚啞。人問其故、曰、我餓耳。問既餓、何
不食糕？曰、是饅頭的。兩曰皆
低聲說

糰粿

『笑府』の輸入と翻訳

『笑府』はその後中国では散佚してしまつたが、日本の内閣文庫には江戸時代に輸入された原本がいまも所蔵されている。

日本では、この本が輸入されると、明和五く六年（一七六八く九）にかけて大ブームとなり、三種の翻刻本が出版された。左の写真は明和六年に出版された『刪笑府』の中の「饅頭」。

有栽楊竿者命童守之旬日不失一株王喜謂童曰
汝用心可佳然何法而能不失荅曰我夜夜拔來藏
在家裡

醃蛋

甲乙兩鄉人入城偶啣醃蛋甲訝曰此蛋何以獨塩
乙曰我曉得了是醃鴨哺出來的

饅頭

有食士餒甚見市有鬻饅頭者偽大呼仆地王人驚
問其故曰吾性畏饅頭王人因設數十枚于空室中
而閉士于内冀相困以為一笑久之寂如乃啟門見
其搏食過半詰之則曰不知何故忽不覺畏王人怒
叱曰汝得無尚有他畏乎曰無他此際只畏苦茶兩
碗



(宋)葉夢得(1077～1148)
『避暑錄話』

(明)馮夢龍(1574～
1645)が中国古今の笑
話を集大成した『笑
府』(全13巻)に収録

『笑府』は江戸時代に輸入さ
れ、明和5～6年(1768～9
年)にかけて3種の翻刻本が出
版され、大ブームとなった

中国笑話から江戸小咄へ

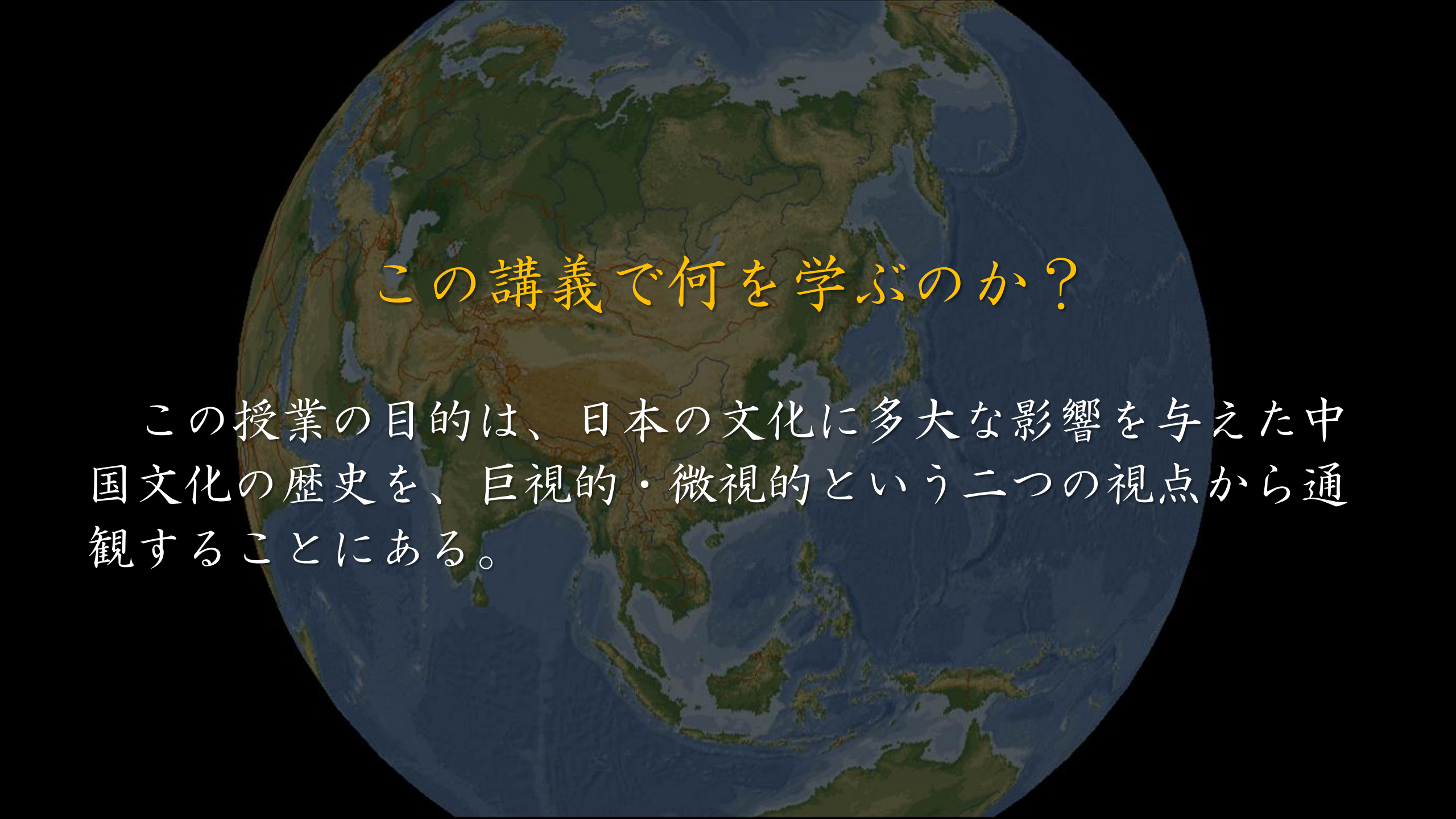
四、五人集まっている所へ、痩せた色の悪い男が片息になって、がたがた震へてきて「あとから饅頭売りが参りますが、私はその饅頭がどうも怖ろしうてなりませぬ。どこぞへかくして下され」といへば、物置へかくしておいて、いたづらに右の饅頭買って、盆へ杉形に積み上げ、物置の内へ入れて戸をぴっしやり建てて押へて居るに、久しく過ぎても音も沙汰もなし。

もし怖がつて死にはせぬかと明けてみれば、饅頭は残らず食って、口なめずりをして居るゆへ「手前はあまり怖がつたから、おどしに入れたが、そう喰って仕廻ったは、どこがこわいのだ」といえば、「アイ、この上はお茶が二、三ばい怖ふござる」

何が日本固有の文化なのか？

落語「饅頭こわい」は、江戸時代に中国から輸入された笑話集『笑府』に淵源を持つ。しかし、二五〇年におよぶ伝承の中で、多くの落語家によって改良・発展が続けられ、いまも多くの人々に愛される日本固有の笑いの文化となっている。





この講義で何を学ぶのか？

この授業の目的は、日本の文化に多大な影響を与えた中国文化の歴史を、巨視的・微視的という二つの視点から通観することにある。

巨視的な視点

巨視的な視点からいえば、中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計り知れない。

表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語 (Lingua Franca) を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。



マテオ・リッチ

Matteo Ricci 一五五二〜一六一〇

イエズス会士。イタリア生。ローマ学院で数学、天文学を学んだ後、東方伝道を志し、一五八二年に澳門に到着した。その優れた中国語力と科学知識によって中国の人々の尊敬を集め、一六〇一年には北京で明の万暦帝に拝謁し、北京在住と中国全土におけるキリスト教布教の許可を得ることに成功し、明末におけるキリスト教布教の先駆者となった。

マテオ・リッチ（一五五二～一六一〇）
は、漢字をどのように評価したので
しょうか？





この文字（漢字）を使う国民は、たとえ非常に言語の異なつた国民の間でも、みな文字や書物を介して相互に理解できるといふことです。西洋の文字ではこうは行きません。それだから日本とシヤム（現在のタイ王国）と中国は、それぞれ別個の大國で、言葉もまたまったく違つているので、相互理解が非常によく行なわれ、同じ文字が各國で使われているようです。

漢字の誕生

文字は、人類が言葉を記録するために最初に発明した装置である。

文字の誕生によって、人類は自らが生み出した文化を、時間や空間を越えて伝え合い、文明の伝承と発展を可能にした。

東アジアでいまも十五億人以上が使用する文字＝漢字は、いつ、どのようなにして誕生したのであるか。



回	時代	テーマ
第1回	はじめに	講義の目的と日程について
第2回	殷	漢字の誕生
第3回	周	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国	儒教經典が伝える民間伝承
第5回	秦	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢	紙の誕生
第7回	魏晉南北朝	華山畿と木蘭詩
第8回	隋唐	仏教の黄金時代と敦煌変文
第9回	五代十国	書籍出版のはじまり
第10回	北宋	三国志の誕生
第11回	南宋	水滸伝の誕生
第12回	元	征服王朝と中国演劇の誕生
第13回	明	出版業の隆盛と俗文学の集大成
第14回	清	民間芸能の隆盛

巨視的な視点

漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに「倫理」にもとづく国際秩序と社会秩序を与えた。

また、サンスクリット語仏典の中国語への翻訳＝漢訳仏典の誕生は、東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。

中国、塾や教室続々

儒教復権

中国で「封建主義の道德」と批判された儒教が復権、市民生活に定着しつつある。孔子の「論語」を音読する子ども向けの塾は花盛り。ビジネスマンの儒教教室も人気だ。急速な国際化や経済成長が中国人としての自己意識を求めさせる。とはいえ、格差の拡大や拝金主義の横行には不満が強い。国民をまとめる思想を探る当局の思惑もかいま見える。(南京〈中国江蘇省〉＝塚本和人)

ベビーカーの「生徒」も

「子曰、学而時習之、不亦説乎」(子曰わく、学んで時にこれを習う、またよろこばしからずや)

明などの都として栄えた南京。毎週土曜日の午前、中心部の鶏鳴寺境内に論語の一節を読む大きな声が響く。小さな講堂に机が並び、壁には孔子



の人物画や写真があり、文字を教えることがある。5〜6歳の幼稚園児ら「論語」「大学」「中庸」まで年齢別に5クラス。1歳から13歳まで約150人が通う。ベビーカーに乗って来る子もいる。普通のサラリーマンや公務員らの子もだ。

昨年3月、南京航空航大大学の講師で哲学を教える戴伝江さん(38)のグループがボランティアで始めた。幼稚園の先生らと指導法を考え、教材書は手作りだ。学費は無

学而時習之、不亦説乎



儒教(聖子)と中国 春秋時代の思想家孔子に始まる政治・倫理思想。徳治主義による秩序維持と君主権の基盤となる。「論語」は孔子の死後、弟子

がまとめた言行書。中心思想は仁で、孝と悌(てい)の家族道德を基礎とした。清朝末まで体制教育として機能し、20世紀に入ると封建制度を支えるとして批判され、新中国建国後も文化大革命などで攻撃された。

80年代からの改革・開放期、特に90年代以降、社会主義色が薄まる一方で経済格差が広がる中で「復権」。最近では中国政府が世界規模の文化戦略として各国に中国語学校「孔子学院」設立を始めた。



鶏鳴寺の講堂で「論語」を勉強する子どもと親たち＝南京市で、上田幸一撮影

回	時代	テーマ
第1回	はじめに	講義の目的と日程について
第2回	殷	漢字の誕生
第3回	周	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国	儒教經典が伝える民間伝承
第5回	秦	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢	紙の誕生
第7回	魏晉南北朝	華山畿と木蘭詩
第8回	隋唐	仏教の黄金時代と敦煌変文
第9回	五代十国	書籍出版のはじまり
第10回	北宋	三国志の誕生
第11回	南宋	水滸伝の誕生
第12回	元	征服王朝と中国演劇の誕生
第13回	明	出版業の隆盛と俗文学の集大成
第14回	清	民間芸能の隆盛

前漢 202BC～8BC		
新 8BC～25AD		
● 後漢 25～220		
魏 220～265	蜀 221～ 263	吳 229～280
西晉 265～316		
五胡十六国 316～439		東晉 318～420
北魏 439～534		宋 420～479
		齊 479～502
西魏 北周	東魏 北齊	梁 502～557
		陳 557～589
隋 589～618		
唐 618～907		

後漢の明帝、西域から仏典と法師を請来(67年)





漢の明帝、西域から仏典と法師を請来(67年)



後趙、龜茲国の僧・仏図澄を国師とする

後秦が龜茲国の鳩摩羅什を長安に招く(401年)

龜茲国

後趙が龜茲国の僧・仏図澄を国師とする(4世紀初)

北朝

(五胡十六国)

南朝

(東晋)

後秦が龜茲国の鳩摩羅什を長安に招く(401年)

漢民族の伝統的儒教世界



漢の明帝、西域から仏典と法師を請来(67年)



後趙、龜茲国の僧・仏図澄を国師とする

後秦が龜茲国の鳩摩羅什を長安に招く(401年)

中原を支配した異民族は、先進的な漢民族の文化に
対抗し、言語や宗教を異にする他の諸民族を統合する
ため、仏教の経典を中国語に翻訳させた（漢訳仏典）。
東アジアの共通言語である漢語に翻訳されたことにより、
仏教は東アジアの世界宗教となっていた。

回	時代	テーマ
第1回	はじめに	講義の目的と日程について
第2回	殷	漢字の誕生
第3回	周	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国	儒教経典が伝える民間伝承
第5回	秦	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢	紙の誕生
第7回	魏晉南北朝	華山畿と木蘭詩
第8回	隋唐	仏教の黄金時代と敦煌変文
第9回	五代十国	書籍出版のはじまり
第10回	北宋	三国志の誕生
第11回	南宋	水滸伝の誕生
第12回	元	征服王朝と中国演劇の誕生
第13回	明	出版業の隆盛と俗文学の集大成
第14回	清	民間芸能の隆盛

巨視的な視点

科学技術でいえば、紙や印刷術の発明は東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。

回	時代	テーマ
第1回	はじめに	講義の目的と日程について
第2回	殷	漢字の誕生
第3回	周	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国	儒教經典が伝える民間伝承
第5回	秦	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢	紙の誕生
第7回	魏晉南北朝	華山畿と木蘭詩
第8回	隋唐	仏教の黄金時代と敦煌変文
第9回	五代十国	書籍出版のはじまり
第10回	北宋	三国志の誕生
第11回	南宋	水滸伝の誕生
第12回	元	征服王朝と中国演劇の誕生
第13回	明	出版業の隆盛と俗文学の集大成
第14回	清	民間芸能の隆盛



資料映像：NHKスペシャル「故宮」より



紙や印刷術は中国で発明されまし
たが、刊行年代が明らかな世界最古
の印刷物はどこにあるのですか？

百万塔陀羅尼

現存する印刷物の中で、刊行の年代や経緯が明らかな世界最古のものは、日本の法隆寺に伝わる百万塔陀羅尼である。

奈良時代の女帝・称徳天皇は恵美押勝の乱の平定後の七六四年から七七〇年まで六年近くの歳月を費やして三重小塔・百万基を造らせ、その中に印刷した無垢浄光大陀羅尼経を納めて十大寺に分置した。

法隆寺にはいまも四万数千基の小塔と無垢浄光大陀羅尼経が現存する。



回	時代	テーマ
第1回	はじめに	講義の目的と日程について
第2回	殷	漢字の誕生
第3回	周	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国	儒教経典が伝える民間伝承
第5回	秦	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢	紙の誕生
第7回	魏晉南北朝	華山畿と木蘭詩
第8回	隋唐	仏教の黄金時代と敦煌変文
第9回	五代十国	書籍出版のはじまり
第10回	北宋	三国志の誕生
第11回	南宋	水滸伝の誕生
第12回	元	征服王朝と中国演劇の誕生
第13回	明	出版業の隆盛と俗文学の集大成
第14回	清	民間芸能の隆盛

回	時代	テーマ
第1回	はじめに	講義の目的と日程について
第2回	殷	漢字の誕生
第3回	周	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国	儒教経典が伝える民間伝承
第5回	秦	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢	紙の誕生
第7回	魏晉南北朝	華山畿と木蘭詩
第8回	隋唐	仏教の黄金時代と敦煌変文
第9回	五代十国	書籍出版のはじまり
第10回	北宋	三国志の誕生
第11回	南宋	水滸伝の誕生
第12回	元	征服王朝と中国演劇の誕生
第13回	明	出版業の隆盛と俗文学の集大成
第14回	清	民間芸能の隆盛

微視的な視点

微視的な視点からいえば、中国歴代の文学、とりわけ市井の人々の間で次々と生み出された俗文学は、東アジアに庶民の文学や芸能を生み出す契機を与えた。本講義でも取り上げる三国志演義や水滸伝などは、わが国の文学にも多大な影響を与えた。

回	時代	テーマ
第1回	はじめに	講義の目的と日程について
第2回	殷	漢字の誕生
第3回	周	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国	儒教經典が伝える民間伝承
第5回	秦	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢	紙の誕生
第7回	魏晉南北朝	華山畿と木蘭詩
第8回	隋唐	仏教の黄金時代と敦煌変文
第9回	五代十国	書籍出版のはじまり
第10回	北宋	三国志の誕生
第11回	南宋	水滸伝の誕生
第12回	元	征服王朝と中国演劇の誕生
第13回	明	出版業の隆盛と俗文学の集大成
第14回	清	民間芸能の隆盛

中国映画：「レッド・クリフⅡ予告編」より

微視的な視点

いっぽう中国の俗文学作品の中には、いまだわが国で知られていない名作も少なくない。本講義ではそうした作品にも光を当て、中国文化理解の一助としたい。

Q このアニメのもとになった物語
は？



梁山伯と祝英台

男装して杭州の学校に入学した少女・祝英台と科挙をめざす苦学生・梁山伯とのあわく、せつない恋を描いた物語。中国の四大民間故事の一つに数えられ、「中国のロミオとジュリエット」とも呼ばれている。



Q このアニメのもとになった物語
は？

講義の進め方と成績評価の方法

- 講義への興味と理解を深めるため、毎回授業の前に事前学習資料を読んでいただきます。事前学習資料は、授業支援システムの「教材」にアップします。
- 成績は、①毎回の授業で提出するリアクションペーパーと②期末レポートによって評価します。期末レポートの課題と締切は、7月の初めに発表します。